第6回　邑南町小中学校の在り方検討委員会会議録

１．日　　時　　令和８年３月３日（火）　１５：３０～１６：３０
２．場　　所　　邑南町健康センター元気館　会議室
３．出席委員　　松本委員長、山下委員、武田委員、土田委員
４．事 務 局　　大橋教育長、原課長、甲山補佐、松浦係長、野田

［開会］
1. 委員長あいさつ

松本委員長：
　皆さんこんにちは。
　この委員会も第６回目ということで、今日は最終回となりました。
　昨年の３月、大屋町長が教育方針を大きく転換し、これまでの学校の存続、継続というところから、統廃合を視野に入れた、子どもたちを中心にしたというところを主眼に、この小中学校の在り方検討委員会を立ち上げました。
　今日１名、山中委員がご欠席ですが、委員５名で、本当に夜を徹してというか、夜も眠れない日もあったように記憶しています。邑南町の小中学校の児童生徒のために、何が一番大切なのかということを主眼に、私たちはこの委員会で答えを出してきました。
　最近では AI の活用がどの分野でも取りざたされています。ちなみに AI に、邑南町の小中学校の統合について尋ねると、今私が冒頭で述べたような言葉が出てきて、課題等もしっかりと反映されていました。昨年のところで AI に聞くと、閉ざされた委員会の中で話が進んでいるのではないかという懸念があると回答していましたが、今年に入って、町民のアンケート結果等、いろいろな情報を開示しました。
　今日も最終報告確認を皆さんとするのですが、その中に書かれている透明性の高い、そして私たちが目指しているのは、あくまでも子どもたちがどのようにこの町で育って、この町に居続けてもいいし、出ていくのかもしれませんが、その後の未来が明るく、生きる力を持つように、その１点に集中して在り方を検討してきました。
　第１回目に、委員長と副委員長を決めさせていただいた後、２回目、３回目と続き、その流れは前回の第５回目のところで、「報告」ということで、皆さんに文言を確認してもらいました。
　前回も傍聴に町の人たちがたくさん来ていただきました。今日もお越しです。繰り返しになるかもしれませんが、前回の第５回で大きな山は超えております。細かな文言や、私たち委員の町の子どもたちに対する思いをもう一度振り返って、どういう答申をするのかを、この会場にいる皆さんと共有し、最後に教育長に答申を手渡したいと思っています。
　議題を進めていきますが、答申に入る前までは私、委員長松本が司会進行します。そのあとは事務局にお任せするという流れになります。
　まず資料ですが、第６回邑南町小中学校の在り方検討委員会の次第が１枚あります。そして、諮問に対する答申ということで１枚あります。この答申は後で読み上げます。
　この答申は１枚ものなんですが、この答申に至るまでの過程ということで、前回文言を確認していただきました、別紙、「邑南町小中学校の在り方検討委員会報告」という中に、これまでこの委員会で検討してきたことを盛り込んで、前回、第5回目の委員会でこの中身について精査してもらいました。

もう１つは、前回もお配りしました、第５回の委員会に諮る前に、委員の皆さんに私、委員長の方から、『「邑南町小中学校の在り方検討委員会」における委員長最終提案・答申に向けて』ということで見ていただいた２枚の資料です。これは本日資料としてお付けしているだけです。

この委員長提案と、これまでの第５回目に至るまでの概要を盛り込んで、ドッキングしたのがこの「邑南町小中学校の在り方検討委員会報告」というものです。今日、教育長に提出するのは、「答申」と、この答申に至るまでの様々な資料としての「報告」、この２つになります。

２. 議題

（1）第5回検討委員会までの振り返り

（2）答申について

松本委員長：

それでは、議題に入ります。まず１つ目は、第５回検討委員会までの振り返り、そして２つ目が答申についてということで、答申の中身については、今日が最後の会議になりますので、前回に引き続いて、これを読み上げて皆さんと共有したいと思います。

ではまず１つ目、第５回検討委員会までの振り返りということで、これは前回、委員の皆さんに、これまでのこの会を振り返って、子どもたちに対する思い等を一人一人に語ってもらいました。委員長として、私が冒頭、前回の振り返りのところで述べた重要な論点としては、一人一人の中に、統合がいいのか、現状がいいのか、そういう気持ちが多かれ少なかれ同居しています。この５人の委員の中にも、どちらが大きいかということについては、現状というところが大きい委員とそうでない委員が混在しています。

その中で、前々回、第４回目においては、結論から申し上げますと、「統廃合を視野に入れた方向で進んでいきましょう」ということに、この委員会では決定させていただきました。

ただし、どことどこが繋がったりというような細かなことについては、地域それぞれの状況がありますので、私たちのこの委員会のその次、来年度になるのでしょうか、そこで新たに検討されていくことだと思っています。ですから、この在り方検討委員会で皆さんにご審議いただいた内容をお一人お一人それぞれの立場で、思いや願いをまずは語ってもらいたいと思います。

委員の構成ですが、私は大学教授、島根大学の松本一郎です。本日山中委員がご欠席ですが、私以外に学識経験者の山下委員、同じく山中委員、保護者代表で武田委員、多様性の視点から土田委員です。

これまでの５回、今日を含めて６回の検討委員会を振り返ってもらい、前回と重なっても結構だと思います。前回話せなかったこと等を含めて、４～５分でも、ちょっと超えても構いません。今日が最後です。町の方々にも来ていただいていますので、改めて思いをお話しください。お願いします。

武田委員：

今まで５回の検討委員会の振り返りということで、改めて最初のときがどんな思いだったかと思い浮かべてみますと、「とてもじゃないが５回で話をして、まとまるようなものではないな」と思いながら参加したことを改めて思い出しました。

一方で毎回議論を重ねていき、最後におまとめいただいたものを拝見していると、ある程度の論点というのは出尽くしたのかなと、実は前回思わせていただくようなところでした。見るべき点は大体見えてきたような気がしています。

ただ、先ほど委員長のご挨拶にもあったように、これで方針、こっちに向けて必ず正解、間違いというのはなかなか言いにくいものだと思っていて、私は保護者代表として、ここに入れていただきましたが、これをもとに今度は、保護者の皆さんや地域の皆さんと話していくことが大事だと思っています。

保護者としては私は上の子が中学生で、下の子がまだ保育園です。10 年ぐらい歳が離れているのですが、おそらく今、上の子が受けている教育と、下の子が 10 年後に受ける教育は、かなり大きな変化が起こる境目なんだろうと感じています。

保護者の中にも、おそらく変わるだろうという気配はみんな感じつつも、いろいろな不安を抱えているのだろうと思っていて、ただ、これを話し合う場というのが、今までそういえばあまりなかったなと思いました。

今回アンケートで声が聞けたり、私もいろいろな方と話す機会があったのですが、今回こうしていろいろな論点を出していただきましたので、今度は地域の仲間や保護者の皆さんといろいろ話せるような機会というのを持てたらいいなと考えていました。ありがとうございました。

松本委員長：

ありがとうございました。

武田委員には保護者向けアンケートと町民向けアンケートについてご尽力いただき、本当にありがとうございました。今回の「報告」の中にも反映され、すでに町の人たちにもその結果は通知されていると思います。

それでは土田委員お願いします。

土田委員：

私は今回委員として入り、多様性の視点から意見を言ってほしいということで、教育長の方からお話をいただきました。最初は、「私でいいんですか」というのが、本当に正直なところでした。

私自身、この邑南町で生まれ育ち、邑南町で子どもたちを育ててきました。特別支援教育で県立学校の方でずっと勤務してきましたので、そういった視点を重ねてきて、同じ町内の小学校でも勤務経験があります。私のこれまでの経験で見えることを話せばいいのかなと思いました。

この 1 年間、委員の皆さんのお話の中で、邑南町の教育の良さというか、邑南町らしさを、改めて自覚させていただきました。私自身もここに住んでいてこれが当たり前になってしまっているところもあり、県立学校で勤務していたことが長いので、町内での子どもたちが受けている教育を、何か第三者的に見つめることができました。保護者の立場でもなかなかわからなかったところ、正直言って、「もうこんなものだ」と思って、「自分たちもこうしてきたから、子どもたちもこうするんだ」という感じがあったのですが、ちょっと 1 歩引いたところで、この邑南町というところはどういうところなのか、その中で子どもたちに対して、地域の皆さんや、大人たちがどう向き合っているのかを、改めて私自身が見つめ直すことができました。

やはり邑南町はすごくいいところなんだと、そして本当に特徴のある地域なんだということを、改めて自覚することができたり、見えてきたということですから、本当に私も邑南町に住む一員として、これからすごく大事にしていかなければいけないと思っています。
時代が変わってきますので、何が求められるのかというのは変わっていくかもしれませんが、やはり人を育てるということで大事なことの根本は変わらないのではないかとすごく思っています。その根本を大事にしていける、そこに邑南町らしさがあるのではないかと思います。
特別支援という視点で、今は邑南町教育委員会の教育支援員として、町内の小中学校の教育にも携わらせていただいていますので、私のこれまでの経験で何らか返していけるものがあれば、少しずつでも返していけたらいいかなと、今改めて思っているところです。本当にありがとうございました。

松本委員長：
ありがとうございました。
土田委員には、誰 1 人取り残さないという SDGs の概念があります。邑南町もそうですが、日本全国どこの学校でも、学校に通えない、クラスに入れない、様々な特別な支援が必要な児童生徒がおります。そういう児童生徒の立場に立って、私たちが議論している「存続か」、「統廃合か」ということになったときに、子どもたちが取り残されないようにと、非常に熱い思いでご意見いただきました。その内容も答申の中に盛り込んでいます。
今持っている邑南町らしさというものを損なうことがないようにというのは、この 5 人の一致した意見だと思います。
ありがとうございました。

今日ご欠席の山中委員は私の先輩でもあるんですが、大学でも教えていらっしゃいましたし、隠岐の島の教育委員会にも入ったりされていました。
その中で、総合的な学習の時間といって、教科を超えて子どもたちが地域と一緒に育つということを、非常に強い思いで進められた、島根県の中でのふるさと教育を作るときの中心人物の 1 人でした。ですから、私たちこの 5 人で人数は少ないかもしれませんが、本当にその熱い思いで語っていただきました。山中委員の「現状が良いのに」という言葉は印象的です。
山中委員に代わって私がほんのさわり、一応代弁しておきました。
今回の「答申」や「報告」の内容も、文言や表現はこっちに変えたほうがいいと、本当に細かなところまで文章に目を通してもらいました。
「反対」、「賛成」という、言葉で言うと軽くなってしまうのであまり使いたくないんですが、私たち 5 人の総意ということで、山中委員にも、この「答申」と「報告」を認めていただきました。ありがとうございます。

そして、山下委員ですが、ご本人がお話される前に、島根大学教育学部においては、私の専攻が小学校教育で、その専攻長であったり、あとは委員ご自身がお話しされると思いますが、邑南町にも何十年も通い続けていらっしゃるということで、それでは山下委員、よろしくお願いします。

山下委員：
振り返ってみますと、私が最初に邑南町にやってきたのは、矢上小学校に 47 年前です。その時は女性の先生で、5 年生の授業を参観させていただきました。

それからしばらくして、口羽小学校に授業研究で出かけて、おそらくこれまで口羽小学校には 50 回ぐらいお邪魔したのではないかと思います。
ここ 14 年ぐらいは毎年各小中学校に行って授業研究をさせてもらっています。邑南町の子どもたちの学力問題が生じたら、私が一番の責任者かなと思って、いろいろな学校問題の新聞記事が出るたびにひやひやしながら見たり見なかったりして過ごしてきました。
こうして今回この委員会の委員をさせていただいて、振り返ってみたときに、私も 80 歳になりましたけれども、一番影響を受けたのが、この邑南町の小中学校の子どもたちから受けた、知識と技能の教育「陶冶」と意識と態度の教育「訓育」の在り方についての内容だったのかなと思います。その 2 つをずっと、邑南町にやってきた時から今日まで、学校教育でいろいろなことを尽くして一生懸命子どもたちを教え育てていくわけです。ずっと子どもたちの成長を願ってやってきたのですが、果たしてうまくいったのかなといつも思いながら、帰路についていました。それにもかかわらず、学校教育が楽しくやっていけているということは、地域や保護者の皆さんのいろいろな支援があったからだと思います。
邑南町には矢上高校も近くにあります。今後も邑南町で育つ子どもたちが、邑南町を支える人材として帰ってきたり、日本のあらゆるところにいて、邑南町に対する思いを持ってくれたら非常にうれしいと思います。
私の長男も、この邑南町で教育を受けた人に担任をしてもらったりして、いろいろと恩がありますので、これから生きている限り、邑南町に恩を返していきたいと思っています。

松本委員長：
ありがとうございました。
先ほどお話しした、今日ご欠席の山中委員ですが、実は今日、島根県が受ける体育関係の大きなサポートをしなければならず、両方とも重要なんですが、この委員会はこの残りの 4 人がいるからということで、そちらに行かれました。ちょっと申しそびれました。

最後に私ですが、私も邑南町との関わりを少しお話ししたくて、山下委員の 40 年というわけではありませんが、10 数年、この町に通っています。
前回は小学校の名前まで挙げませんでしたが、今日は最後なのでお話しすると、日貫小学校に何年も通って、そこで子どもたちと文通をしたり、あとは名前はちょっと伏せますが、Y 君との交流がありました。山陰中央新報に大きな写真が載って、全部 Y 君特集で、最後に将来は松本先生のような先生になるんだと書いてあるのを見て、ちょっと涙したのを思い出しました。
邑南町すべての地域でいうと、JAXA の先生と組んで、7 つの小学校と 3 つの公民館で、同時多発的に星空学習をしたことがありました。これは、今も矢上小学校の屋上に設置されているインターネットカメラを使って、月を見るカメラ、星を見るカメラで子どもたちとこの邑南町の綺麗な星空を眺め、それを世界中に届けました。邑南町で育って、いろいろな地域で働いている大人たちも、インターネットで邑南町の星空を見て思い出してくれるといいなと子どもたちと語った記憶があります。

この 5 人で委員会をやってきました。
ここからは、最終確認です。大きなヤマ場は前回の第 5 回でクリアしています。
お配りしているものが、本日大橋教育長に渡す文言そのものになります。「答申」と「報告」を読み上げながら解説をしますので、皆さんと共有して、何かありましたら、言葉をいただけたらと思います。

それではまず、諮問に対する「答申」がどういう内容か読み上げます。

（答申読み上げ）

そして「邑南町小中学校の在り方検討委員会報告」、これが中身になります。割愛せずに読み上げます。

1. 邑南町小中学校の在り方検討委員会の設置
人口減少や社会の変化を踏まえ、子どもたちに邑南町ならではの最良の学びを提供することが求められています。そのような中で子どもたちが地域に誇りを持ち、将来の邑南町を担う力を育む教育環境を整えること、多様な学びを支え、すべての子どもたちの学習機会を保障することが重要と考えています。邑南町らしい理想的な教育の追求、並びに持続可能な教育環境を確立するため、小中学校の在り方について多角的に議論を行い、邑南町の教育が将来にわたって発展し続けるための方向性を示すことを目的として、昨年 6 月 26 日邑南町教育委員会から諮問を受け、「邑南町小中学校の在り方検討委員会（以下、「委員会」という。）」が設置されました。

委員の構成は、「報告」に記載のとおりの 5 名です。
第 1 回委員会では、委員会設置の経緯や小中学校の現状説明がありました。そして意見交換をした後、委員長及び副委員長を選任しました。
第 2 回目は、第 1 回会議の振り返りを行った後、学校と地域の関わりについてとアンケートの実施について議論しました。この時は、各地域にある公民館が出している公民館だよりと、これまで新聞に取り上げられた子どもたちを中心とするいろいろな活動の記事をできる限り集めて会議室いっぱいに並べ、それを見て魅力について振り返り、議論しました。
第 3 回目、保護者・地域住民対象のアンケート結果が出てきましたので、この結果を踏まえ、議論しました。ただし、私たちはあくまで、このアンケート結果は参考資料として参照したということになります。あくまでも私たち 5 人が考える、子どもたちにとって何が最善なのかについて話しました。ただ、町の人たちと意見の乖離があってはいきませんので、そのあたりについて参照したというところです。
第 4 回目は、当委員会における今後の方針と委員長提案について、委員の皆さんにお諮りして、統合や統廃合という方向性でお認めいただいたということです。
前回、第 5 回の委員会、2 月 27 日では、それまでの委員会を振り返り、今日委員の一人一人にお話していただいたような内容を話した後に、この答申内容、そして報告内容についてご確認いただきました。本日お配りした「答申」と「報告」は、その時にチェックしてもらったことを反映させたものになります。
繰り返しになるかもしれませんが、お聞きください。3.から読み上げます。

3. 邑南町立小中学校の現状・課題
・ 現状の少人数の学校（複式学級）では、日常での授業や学級・学校活動を行う際、同級生や同年代の子ども達との多様的な考え（多様な視点との出会い）に接しにくいことや、地域の人との交流が盛んではあるものの、児童生徒数が少ないと、人間関係の固定化といった社会性、対人関係に関する課題があります。
・ 「統合」「現状維持」のどちらにおいても、現状の邑南町の教育の良さ、（地域との繋がり、一人一人に目が行き届く）や魅力は今後においても損なうことがないよう、教育内容の

方法は模索・実現すべきです。通信環境や ICT の活用などは方法の一つとして役立ちます。

・ 文部科学省の推奨する「対話的な学び」、「集団の中でのコミュニケーション力の育成」について、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくことが重要であり、一定規模の児童生徒数が必要とされています。
・ 邑南町の小学校には、現状として学年に児童が 1 人もいない学校や、同級生に同性が複数いない学校があります。

この3番で現状を確認しました。これも良し悪しと前回議論がありました。この文章については、現状を述べておくことにとどめました。

前回山中委員からも何が適正な数なのかというご意見がありました。少ないなりの良さ、多いなりの良さ、それぞれ認めているということです。

次に実施したアンケートの詳細について読み上げます。

4. アンケート

●保護者向けアンケート

実施期間：令和7年9月8日～9月20日
実施方法：すぐーる（邑南町教育委員会学校連絡システム）にて発信
回答方法：チラシ掲載のQRコード、または回答用URLからWeb回答
回答件数：132件

●地域住民向けアンケート

実施期間：令和7年9月10日～9月30日
実施方法：広報おおなん9月号、邑南町公式LINEなどで周知
回答方法：①Web回答　QRコード、回答用URLから回答
②紙による回答　公民館配置のアンケート用紙に記入して回答
回答件数:109件

アンケート結果の概要について 4 つほど述べます。

・ 全ての地域から件数は多くはないものの、保護者に対して行ったアンケート、地域住民に対して行ったアンケートの集計によると、邑南町での「教育内容」について、現状の教育内容には多くの人が満足していることが再認識されました。
・ 「学校再編の話し合いを始めること」について聞いた設問では、保護者、地域住民に行ったアンケートともに「必要だと思う」と「やむを得ないと思う」との回答が約 9 割となっており、再編の話し合いが必要だという意見が多いということが明らかとなりました。
・ 一方で、地域の学校を存続させたいという切実な願いや、通学距離が延びることに対する不安など、多様な「思い」もありました。
・ 現在の学校の児童・生徒数の規模についての設問では、保護者の 46％、地域住民の 72％の人が「小さい」と感じていることがわかりました。

これらのアンケートは、私たち 5 人の委員でいろいろと子どもたちのことを思ってやっているのだけれども、それが町民の皆さんの意見と、大きく乖離していたらどうしようという

ようなこともあって実施したということです。あくまでも子どもたちの教育の質の向上というところで私たちは議論してきました。

次に５番、委員会での議論、意見についてです。
この委員会は今日で終わりますが、来年度、おそらくさらに話し合いが持たれると思います。この委員会での議論や意見というものを、次に生かしてほしい内容として書かせていただいています。
読み上げます。

5. 委員会での議論、意見
①答申に向けて
委員がそれぞれの立場・経験から、小中学校の学びの在り方、小中学校の再編について、子どもたちの「学び・成長」を一番に考え議論しました。
邑南町の教育方針の基本理念である「次世代を担う邑南の人づくりのために」～『世界へも羽ばたける力』の育成をめざして～、邑南町教育目標～ふるさとを学び、人と文化を育む心豊かなまちをめざして～『将来の担い手を地域総がかりで育てる』にあるように、学びの方向性は、間違っていないと確信しました。子どもたちがふるさとを愛し、将来の邑南町を担う人材として成長することを期待します。
小中学校の再編について、小中学校の現状や課題から将来的にも一定規模の児童生徒数が必要であることから、委員会としては、小中学校の「統合」が必要であると提案します。統合により、児童生徒数が増えることで、より「対話的な学び」、「集団の中でのコミュニケーション力の育成」が図れるようにし、集団活動を行う環境を整え、課題を解決することが必要です。
このことについては委員の中でもさまざまな意見がありますが、統合したとしても地域との繋がりが薄れることなく、公民館、学校運営協議会と連携した教育に取り組んでください。
また、学校の在り方は、その時代に合うように常に議論し、見直していくことが必要です。目指す子どもたちの姿に近づいているか評価し、見直す体制も整える必要があります。
統廃合の議論は、批判やネガティブな要素に傾きがちですが、「子どもの教育の質の向上」、「地域の発展」という前向きな目的を常に中心に捉えるべきです。未来への希望を育む建設的かつポジティブな議論を今後お願いします。
最後に、来年度以降、統廃合の議論を進めていく上では、さらに多くの意見を参照する必要があります。ついては、より開かれた場での丁寧な対話が必要だと考えます。

次の②以降は、議論の中で出た学びの在り方に対する意見です。

②邑南町の魅力
- 家族の繋がり、親子が繋がって仲良く暮らしている姿が、邑南町らしさではないでしょうか。また、社会教育が充実しており、地域の方との繋がりが強いのも邑南町の特徴であり、魅力です。ふるさと教育に積極的に取り組んだ成果として、地域に対する愛着や誇りを持つ子どもたちが増えてきたといえます。各世代が幸せを感じながら過ごせる町、帰りたくなる町になるように、教育の在り方は町づくりと関与しています。
- 学校に対する地域の支援が多く、子どもたち自身が学びにしっかりと取り組んでいます。学校を見守る地域の良さは、これからも持ち続けていただきたいものです。

・ これからも町づくりの中で学校がどうあるべきか教育の視点からも考えていく必要があります。また、地域の再生、活性化に繋がるような授業づくりの在り方を考える必要があります。

③地域（公民館）の活用・連携、ふるさと教育の推進
・ これまでの教育の中で地域との繋がりや連携が、邑南町の教育の魅力の一つですが、公民館の活用も学校教育の一部として、それぞれの地域の実情に応じて進めることが必要です。
・ 邑南町の子どもは、日々の生活の中に公民館との関わりがあります。ふるさと教育を中心に、学校の授業には限りがあるため学校と公民館が連携し、取組みが学校教育から社会教育に移っていき、学びの場が地域（公民館）へ継続・発展するしくみの構築が必要です。地域学校など継続・発展して行われることを期待します。
・ ふるさと教育の活動は、地域のことを学び、知ることはもちろんですが、普段関わることのない様々な人との関わりや出会い、「ひと・もの・こと」との総合的な触れ合いを通し、自らが人やものと関わる力を高めることが大切です。人との出会いの場をたくさんコーディネートできるような教育を目指す必要があり、大人と触れ合う機会があるこれまでの教育の在り方は今後も続けていくことが大切です。

ここでちょっと言葉を加えますが、統合したとして、子どもたちの様々な学習成果に対する発表会が、多分想像できますが、ある場所でやるということはもちろん大事ですが、これまでと同じように、それぞれの地区でそれぞれの地域の人たちに発表する場も作ってほしいというのは、前回の第 5 回のこの委員会でも話がありました。
文言には入っていませんが、口頭でお伝えしておきます。
続けます。

・邑南町は、これら学びが実現できる地域であり、その特色を生かしていくことが重要です。地域の人と出会い、人と繋がることで、地域の願い、期待に子どもが触れることによって、ふるさとへの愛着が湧き、それを育てることで将来を担っていく人材を育てることにつながります。
・ 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）など、地域の人が教育に積極的に参画できるよう働きかけ、地域の力を借りながら学校・保護者・地域が連携するしくみを強化することが必要です。
・ 学校の再編によって、学校が遠くなったことをきっかけに、地域の人たちが学校から離れてしまわないように遠くなろうとも、それぞれの地区を巡るふるさと教育を推進すべきです。
・ 子どもが生き生きしているためには、大人が生き生きしていることが大事です。大人のふるさと教育にも取り組んでいく必要があります。
・ 地域と子どもの対話交流の場（発表の場）がもっとあるといいと思います。地域の人に勉強についてだけでなく、将来の不安や考えていることなど、安心して聞いてもらえる環境づくりが必要だと思います。

④多様な学びを可能にする体制づくり
・ 誰一人取り残さない教育が必要です。不登校、特別な支援が必要な児童・生徒や、授業についていけない子にもう少し丁寧に個々の実態を把握して学習を進める必要があ

ります。不登校や支援が必要な子どもに特化した教育も誰一人取り残さない取組のひとつになります。

- 邑南町の学校は、人数が少ないからこそ多様な子どたちに対応する教育を行うことができます。小規模の学校があることで救われている子どもがいることや、学校に行くのが苦手な子は教育支援センターやフリースクール、公民館、通信の利用など、学びの選択肢を増やし、体制を整えることが必要です。
- 一斉指導では理解ができにくかったり、参加できにくかったりする場合の指導や通級の利用について、体制をより充実したものにする必要があります。
- 少人数で自分にあった学びを希望する子どももいます。個々の実態に応じて丁寧に関わり、把握した上で学習が進められるといいと思います。
- これからの「学び」に ICT は欠かせません。デジタル学習基盤を整備して学びの機会を設けることも必要です。
- 保小の連携により、入学前からの実態把握、支援の必要性について、引継ぎがスムーズにできる体制が必要となります。
- 小中学校、高校、養護学校、保育所の連携が求められます。

⑤少人数学校（複式学級）の魅力はそのままに

- 少人数の学校だからといって、対外的な学びの機会が少ないということは一概には言えません。同級生がいなくても、上級生・下級生の上下関係の中での縦割りの集団学習、地域の協力が得られやすく地域の方との対話など、地域が一体となった活動が行われています。このような活動は継続・発展していかなければなりません。
- 一人一人に目が行き届きやすく、少人数の枠だからこそできる丁寧な邑南町の教育を続けていく必要があります。
- 現状の邑南町の教育の良さ（地域との繋がりや、個別指導的な教育内容のメリット）や魅力は今後においても損なうことのないよう続けていくことが必要です。

⑥再編の話し合いを進めるにあたって

- 再編にあたっては、異学年間の交流や中学校への進学の折の「中一ギャップ」などを考慮すると小中一貫教育である「義務教育学校」も視野に入れると良いと考えます。
- 学校教育だけでなく、部活動や地域の文化的な活動及びスポーツといった放課後の体験活動まで含めた、子どもの生活全般を包括的に考察する必要があります。
- 再編した際の通学時間の問題は、課題として残りますが、有効的な活用（例えば、バスの中（通学時間中）でのテレビでの学習教材動画の視聴・学習）なども有効です。
- 学校新設するなら、公民館・図書館を併設するなど、地域コミュニティの拠点になる施設にすると、人との関わりが容易にできると考えられるため、参考にしてください。
- 統合により、中央に拠点校を設置し、各地域の公民館を「学習のサテライト」として位置付け、ICT を活用して分校的な機能を維持するような、本町独自の新しい学習スタイルの検討をしてください。

⑦子どもを取り巻く環境について

- 現代の子どもたちは、学校以外でも習い事や地域の行事など多忙な状況です。子どもを取り巻く環境も複雑化しています。そのような中、子ども一人一人が伸び伸びと幸せに成長していってほしいと願います。

・ 児童生徒の成長には、彼ら一人一人に固有な夢・希望・目標・意欲、踏み出すスイッチを具備させ、見守り、促し、発展させる家庭・友人・地域・学校・教師・国などの在り方（その存在と役割）がいつの時代も大切です。自分の夢や希望を育てることが学力や人格を育てていくきっかけになります。希望を持てる地域にして、支えていくことが必要です。

以上が「報告」の内容になります。
同じような内容を重ねて述べているところも多いのですが、この「報告」に、委員一人一人の思いや願いが込められています。

読み上げた内容について、もし何かあったらおっしゃってください。感想でも結構です。

武田委員：
ありがとうございます。お読みいただくのも大変だったと思います。
いろいろな形でお話させていただいたのを綺麗におまとめいただいたなと思っています。特に昔の教育のお話を伺ったり、アンケートのことを聞いていく中で、「邑南町の教育はいいんだ」ということを再確認できたのが、すごく貴重な時間だったと思っています。
また答申の中にも、再編にあたって「こうなったら」「ああなったら」という未来の明るいビジョンもたくさん盛り込めたと思っていて、どれが「実現できる」、「実現できない」というのはもちろんあるかとは思いますが、これから変わっていく教育のタイミングですので、何がしかこれからまた前向きに進んでいけばいいなと思いながら聞かせていただきました。
私の方では特に気になるところはありませんので、お進みいただけたらと思います。

松本委員長：
ありがとうございました。それでは土田委員、お願いします。

土田委員：
前回気になったところや、ぎりぎりのところでどうだろうかといったところも、ちゃんと直していただきありがとうございます。
夜も寝られなかったのは松本委員長だったのではと思って、本当にお忙しい中こうやってまとめていただいたんだと思います。私たちの思いはすごく素直に表現できたなと思っています。
これを受けてどのような感じで進んでいくんだろうというのがちょっと心配な部分もありますが、私が邑南町に住んでいながら第三者的にこの邑南町の教育について気づけたように、町民の皆さんにも改めて気づいていただいて、「やっぱり邑南町いいよね」と思いながら、みんなと話していけるように、今あるものをすごく大事にしながら、今後に向けてポジティブに進んでいける、より良い学校づくりというのをみんなで考えていけるようになってほしいなと、すごく願いを込めて聞かせていただきました。ありがとうございます。

松本委員長：
ありがとうございます。土田委員、私のこともねぎらっていただきありがとうございます。
今日、山中委員の最後の言葉は聞けませんが、前回まで熱く熱く語られていましたので、皆さんの記憶に残って、この「報告」の中にもたくさん入っていると思いますので、また振り返って欲しいと思います。
それでは山下委員お願いします。

山下委員：
　私が邑南町に最初に足を踏み入れたのは 50 年ぐらい前だったでしょうか。口羽中学校がまだあるときに、県の水泳大会で優勝したということが新聞に出て、その当時大学 4 年生の卒論生を連れて出かけて、キャンプ場に 3 日間泊まりました。口羽中学校のプールのところへ行ってじーっと眺めた 50 年ぐらい前のことを思い出します。
　昔からここにはそれぞれの地域に応じていろいろな特徴があって、伝統的に積み重ねたものがあって、それを地域の子どもたちは吸収しながら、吸い込みながら、パイプを太く大きく成長しているんだなということを実感したことがありました。今もまた形を変えて、それぞれ異なる公民館との関係の中で、学校が終わって家に帰ってからも、地域の人たちとともに、何か大きく育つきっかけを掴んでいるのではないかと思います。
　私はこれまで口羽と日貫の学校によく通って、その 2 つの地域を見ながら、やはり地域というのは、子どもたちがどう育っているのかということをずっとキャッチして、関心を持ちながら支えておられるんだということを思っていました。それが邑南町の子どもたちを育てる 1 つの栄養素にもなっているのではないかと思っていますので、何か地域とあり続けるための学校の在り方というものを、私は授業研究というか、先生たちの授業での教え方という専門ですので、また 4 月以降、この邑南町の小中学校の先生方の授業を見て、そこを通してもいろいろと関わっていきたいと思っています。

松本委員長：
　ありがとうございます。私も短く話します。
　そういえば日貫小学校で山下委員と授業研究で一緒になったことがあったのを思い出しました。
　子どもたちが育つというのは、今現在こうやって議論しているわけですが、何年か後、何十年か後にその姿が見えてくるので、教育は本当に時間がかかります。
　私が隠岐高校で関わった子が、大学に行きたいというので、いろいろ話を聞いたら、島大ではなく、これは信州大学だなと思って紹介しました。4 年終わって、大学院で島大に戻ってきて、そのあと隠岐の島で仕事に就いているという、こういうこともあるなと思いながら、先ほどの日貫の例でいくと、Y 君のような 10 何年つき合ってきた子どもたちが、本当に生き生きして、それが進学や社会に繋がり、またこの町に帰ってくればいいなと思います。
　4 月以降、統廃合という方向性を私たちはつけたわけです。変革すると何かが変わります。何かが変わるけれど子どもたちを育てることについては、これまで以上に、何か力になればということを願いながら眠れなかったということもございました。
　ということで 6 回、皆さんの協力のもと、答申までこぎつけることができました。
　春からが本番だと思います。邑南町は広く、それぞれの地域の事情がありますので、その事情に合わせていろいろな話が進んでいけばいいなと思います。
　確かに産みの苦しみがあって、山あり谷ありだと思いますが、それでもその山を越える努力は、子どもたちや地域のためになると思いますので、ぜひ子どもたちを引っ張っていってほしいなと、最後、委員長の松本から思うところです。
　委員の皆さん本当にこれまでありがとうございました。

　それでは答申になりますので、この後の進行を事務局の方にお返ししたいと思います。

事務局：
　それでは、答申に移ります。

（松本委員長から大橋教育長に答申）

事務局：
　ありがとうございました。
　それでは大橋教育長よりお礼申し上げます。

大橋教育長：
　松本一郎委員長様をはじめ、委員の皆様におかれましては、この１年間、多忙な業務の合間を縫っていただき、本日を含め６回にわたる熱心なご審議をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。
　先ほどいただきました答申は、本町の教育の今であったり、また未来を切り開くための、まさに道しるべになるものと確信をしております。
　今回の答申では、変化の激しい社会を生き抜く力の育成や、一人一人の個性に寄り添った教育について、そして邑南町らしい教育の進め方など、非常に具体的且つ示唆に富む提言をいただきました。
　現在、教育現場は多様な課題に直面しておりますが、皆様からいただいた邑南町らしい教育の在り方という視点は、これからの施策展開において不可欠であると再認識をした次第でございます。
　私たちは、この答申を単なる提言として終わらせるのではなく、本町の今後の学校の在り方を含め、その基本方針及び実施計画に着実に具現化していく所存でございます。教育現場、家庭そして地域社会としっかりと連携をし、子どもたちが誇りを持って学び、成長できる教育環境づくりに全力を尽くして参ります。
　結びになりますが、委員の皆様には、今後とも本町教育のよき理解者として、また時には厳しい助言者として、変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いを申し上げ、私からのご挨拶とさせていただきます。
　本当にこの１年間ありがとうございました。お世話になりました。

事務局：
　それでは、これをもちまして、邑南町小中学校の在り方検討委員会を閉会させていただきます。
　ありがとうございました。